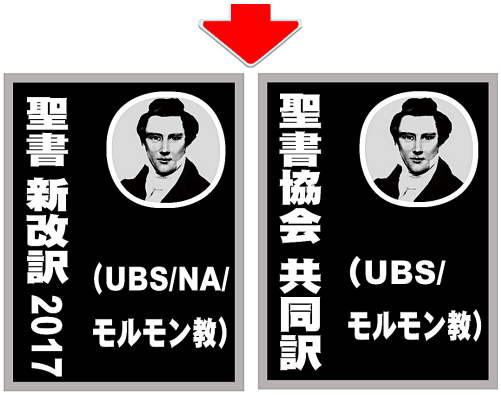
シナイ写本は確実に偽造物です！

…七つの証拠

PDF

現代版聖書の土台はシナイ写本とバチカン写本です。
シナイ写本は19世紀の産物であり、偽造物です。
その『七つの証拠』がビル・クーパー博士により簡潔に要約して述べられています。
そして、だれがシナイ写本を書いたのかも明らかにされています。
このページは、その著書『シナイ写本とバチカン写本の偽造』の抜粋です。
詳細は同書をお読みください。

【シナイ写本・バチカン写本】



●七つの証拠

《ビル・クーパー博士》

私たちは、シナイ写本が『偽造物』であることを示す多くのしるしのいくつかを調べ、また、それが『古代のもの』であると申し立てられている主張についても調べてきましたが、ポイントは次の七つであると考えます。

1. この手書き写本はすべて皮紙に書かれており、**その皮紙は酸化してはなく、しなやかで**あり、それについて主張されているような**『古代のもの』では決してなく、そのコラー**

グンは実質的に腐敗していません。（注1）

2. この手書き写本のほとんどのページに、**偽造を暴露する徴候**があり、**本文を色あせさせたり、ページを変色させたりして、実際よりはるかに古く見せようとする、きわめて素人っぽい試み**が見られます。（注2）

    1. 不自然に色あせしているインク
    2. 半分だけこすられたページ
    3. 「新鮮な二ページ・こすられている二ページ」の繰り返しパターン
    4. 消された後で書き直しがされた欄外の注
    5. 非常に醜い「上書き」で損ねられたページ
    6. 濃淡の縞…変色剤が不均一に使われたページ
    7. 非常に不器用で、醜い、下手な上書き

3. いくつかのページは、**不自然に、そして説明がつかない仕方で切断されています**。

    ◦ 不自然に切られているページ

4. **『四角の虫穴』**を露呈しているページもあれば、『ふつうの』虫穴を多く露呈しているページもあります。

    ただし、**本当の虫なら**最もおいしい箇所にたどり着くために**できたはずの『進入の線』が全くありません**。

    隣接するページには、それらの虫穴の説明となる、整合性のある**虫穴が全く存在しません**。（注3）

    1. 不自然な「水による」損傷・進入線のない虫？
    2. 2016年から2022年の間に行われていた改ざん

5. シナイ写本には外典の**『バルナバの手紙』の本文が含まれていますが、その本文は、本質的に『現代ギリシャ語』で書かれており**、後代のラテン語校訂本からギリシャ語に翻訳されたことの文法的証拠や語彙的証拠も、多く含まれています。

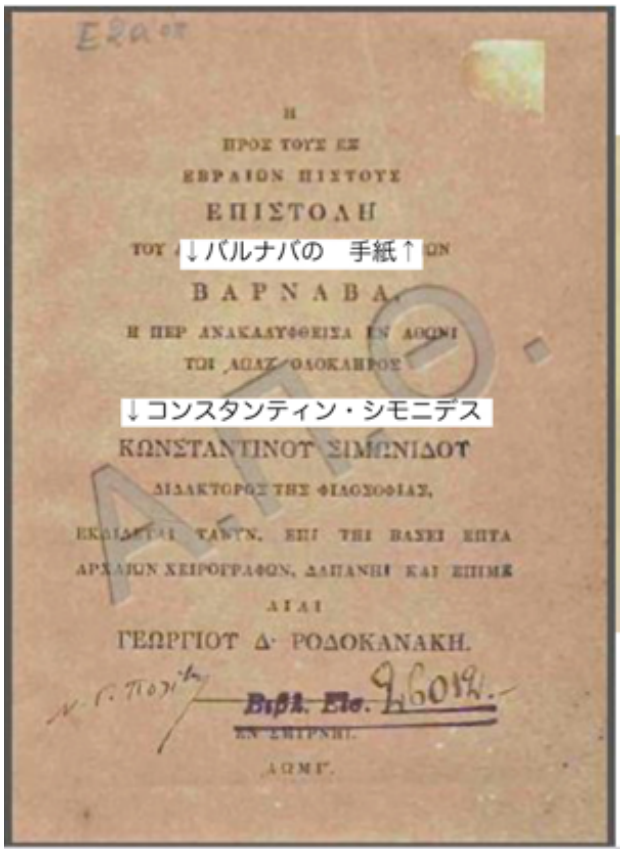
    しかも、『バルナバの手紙』は、新約聖書のほとんどの書の筆跡と同じ筆跡（『筆記者A』）で書かれています。

それは、**18世紀と19世紀に生きて活動した学者たちによって提案され、推奨された、そのラテン語本文の学術的修正にも対応しているもの**です。

さらに、その本文は、１８４３年（ティッシェンドルフが、その本文がシナイ写本内にあることを見出すより**16年前**）に、**シモニデス氏によって印刷（発行）された本文と同一**です。（注4）

●シナイ写本が19世紀の産物であって、古代の写本では全くない証拠

『バルナバの手紙』のギリシャ語本文は、１８４３年７月22日、スミルナ（トルコ西部の都市）で**出版されました**。



（Bryan C. Ross氏のPDF(2018)より）

このことの重要点は、第一に、**出版されたこのギリシャ語本文が、シナイ写本の中にある『バルナバの手紙』の本文と実質的に同一である**ことです。

そして第二に、１８５９年にティッシェンドルフがシナイ写本の中にそれが書かれているのを見出すよりも**16年も前に、この本文がシモニデス氏の手中にあった**ことです。

さて、このギリシャ語本文をティッシェンドルフが手に入れるよりずっと前

に、シモニデス氏がそれを所有していたのなら、それをシナイ写本の本文の中に書き記したのは、シモニデス氏しかあり得なかったことになります。

このことにより、**シナイ写本は19世紀の産物であって、古代の写本では全くない**ことになるのです。

- シナイ写本が19世紀の産物であることの決定的証拠

6. シナイ写本には外典の**『ヘルマスの牧者』も含まれていますが、これもまた『現代ギリシャ語』で書かれており**、後代のラテン語校訂本からギリシャ語に翻訳されたことの文法的証拠や語彙的証拠も、多く含まれています。

『ヘルマスの牧者』の本文も、１８５６年（ティッシェンドルフが、その本文がシナイ写本のページ内にあることを見出すより**約３年前**）に、**シモニデス氏によって発行された本文と同一**です。

1. 19世紀の「金属のペン先と墨汁」の使用
2. イザヤ書のページに書かれている「現代ギリシャ語」

7. そして最後に、シナイ写本のページからマルコの福音書の終わりの部分を取り除き、偽の部分でそれに置き換えた、**完全な詐欺行為**が存在します。

それを実行したのは、バチカン写本からマルコの福音書の終わりの部分を取り除き、偽の部分で（ただし、シナイ写本にあるのと同一の終わりの部分で）それに置き換えた、**同じ筆記者**でした。

「最善で最古の写本にはマルコ16・９～20はない」と主張する学者たちや現代版の聖書は、完全な詐欺行為に基づく『うそ』を主張し続けているにすぎません。（注5）

●シナイ写本は、まやかし物です！

これらのポイントのうちの、どの一つでも、それだけで有罪とするに十分なはずです。

けれども、すべてのポイントを合わせる時、それらは、まさに有罪判決を下す証拠となります。

シナイ写本は、まやかし物です。

それは、神の不変のことばであるみことばを判断したり評価したりするにふさわしい**権威あるものでは、全くありません。**

（以上は、ビル・クーパー師の著書からの抜粋です）

- （注１）**証拠の1.**は、シナイ写本の皮紙が比較的新しいものであることです。

  皮紙の内部のコラーゲンは何百年もの間に劣化するものであり、皮紙は、その完全さも、しなやかさも、強さも失うものであるのに、シナイ写本の皮紙は、そうではありません。

  それは「古代のもの」ではないのです。

  そのことは、科学的に検証しさえすれば明らかになるはずなのに、検証は止められているのです！

  たとえば、写本『2427』が本物なのか偽物なのか、だれも証明できずにいた時、一人の化学の教授がそれを化学分析したことにより、その年代が18世紀以後であることが判明し、偽写本であるとわかりました。

  ところが、2015年から始まったシナイ写本の検証の場合、その検証プロジェクトは、突然キャンセルされたのです！

- （注2）**証拠の2.と3.**は、偽造者らの行った**偽装**です。数々の事例を見るなら、明らかです。

- （注3）**証拠の4.**は、実際の筆記者であるシモニデス氏が用いた皮紙の状態を示しています。

  彼が書き写した際に利用した「何も書かれていなかった皮紙」の中には、初めから虫穴のあったものや、四角い穴が開けられていたものもあり、彼はそういう皮紙も、穴のない皮紙も使い、**それらの穴を避けるように文字を書いた**のです。

  したがって、隣接するページに用いた皮紙の同じ位置に穴がないのは、ごく自然なことです。

  つまり、「古代に書かれた文字が、その後何世紀もの長い間にできた虫穴などによって消された」ということでは全くないことを表しています。

- （注4）**証拠の5.と6.**は、**だれ一人として全く反論できない決定的証拠**です。

すなわち、**シナイ写本が19世紀の産物であって、古代の写本では全くないことの決定的証拠**です！

- （注5）**証拠の7.**については、次のページで詳しく述べることにします。（そのことは偽造者らの失態であり、バチカン写本も偽造物であることを明らかにするきっかけでもありました）

●シナイ写本を書いた人は？

上記の七つの証拠から、シナイ写本が『偽造物』であることが明らかです。

では、シナイ写本は、だれが書いたのでしょうか？

シナイ写本の中の『新約聖書』のほぼすべては、コンスタンティン・シモニデス氏（1820年～1890年）によって書かれました。

ただし、マルコによる福音書の終わりの箇所などの一部だけは、名前がまだ不明の偽造犯罪者（『筆記者Ｄ』と呼ばれる人物）によって書き換えられました。

（ただし、シモニデス氏は、偽造する目的で書いたのではなく、ロシア皇帝への献呈品として19世紀前半に書き写した（模写した）にすぎません。**彼はだまされたのです**）

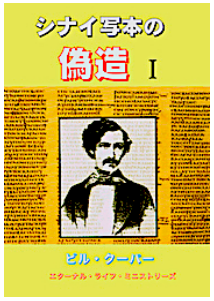
上記の**証拠の5.と6.**にあるように、『シナイ写本』として登場するよりも前に、その写本の中の『バルナバの手紙』や『ヘルマスの牧者』をシモニデス氏が発行していたことからも、シモニデス氏が書いたことは明らかです。

このことについての詳細は、以下の数々のページも参照ください。

- シモニデス氏の証言
- 修道士カリニコス氏の証言
- シナイ写本・バチカン写本 どちらも偽証物です!!

日本語書籍では、こちらをおすすめします。

- 『シナイ写本の偽造1』
- 『シナイ写本とバチカン写本の偽造』



《コンスタンティン・シモニデス氏》
（1820 年～ 1890 年）

■さらに深い理解のために（英語）…

→ 約百年で大きく色落ちしているインク

→ シナイ写本の全皮紙の色

→ シナイ写本（オンライン） （リンク先は、『ヨハネの黙示』と現代ギリシャ語の『バルナバの手紙』が同じ皮紙に書かれているページ。
シナイ写本が19世紀の産物であることの決定的証拠参照）

→ Bryan C. Ross氏のPDF(2018)（シナイ写本かシモニデス写本か）

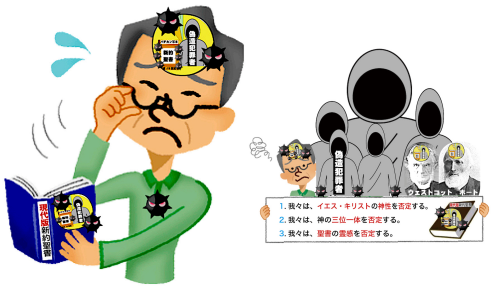
→ Sinaiticus.Net（シナイ写本の真正性について）

→ バチカン写本（オンライン） （リンク先は、『マルコの福音書』の終わりと『ルカの福音書』の初めの箇所のページ）

V1 次へ→V2 V3 聖書の歴史

聖書の歴史V 偽造写本から"ねつ造"された現代版『新約聖書』

1. シナイ写本は確実に偽造物です！ …七つの証拠
2. バチカン写本も確実に偽造物です！ …偽造者らの失態
3. 『19世紀の偽造者が書いたもの』を読ませられている人々



シナイ写本の偽装と矛盾

《》内は『シナイ写本とバチカン写本の偽造』の該当ページ

●全体の説明は→『シナイ写本は確実に偽造物です！ …七つの証拠』参照

1. 不自然な「水による」損傷・進入線のない虫？《p.18》
2. 不自然に色あせしているインク《p.19》
3. 不自然に切られているページ
    - ハサミを使ってカットされた皮紙《p.62》
    - 半分に切られているページ《p.86》
    - ハサミで切られているリーフ《p.88》
4. 半分だけこすられたページ《p.72》
5. 「新鮮な二ページ・こすられている二ページ」の繰り返しパターン《p.72》
6. 消された後で書き直しがされた欄外の注《p.73》

7. 非常に醜い「上書き」で損ねられたページ《p.73》
8. 濃淡の縞…変色剤が不均一に使われたページ《p.82》
9. 非常に不器用で、醜い、下手な上書き《p.82》
10. 19世紀の「金属のペン先と墨汁」の使用《p.82》
11. イザヤ書のページに書かれている「現代ギリシャ語」《p.83》
12. 2016年から2022年の間に行われていた改ざん《p.83》
13. シナイ写本が19世紀の産物であることの決定的証拠《p.87》

ページの上へ↑

- ●歴史V　"ねつ造"された『新約聖書』
- 現代版『新約聖書』の正体
- シナイ写本の偽装と矛盾
- 《聖書の歴史 目次》
- ●歴史Q　偽造された写本
- ●歴史R　WH本文と英語聖書RV
- ●歴史T　日本語聖書の検証
- ●歴史U　WH本文に由来する"聖書"
- 降霊術者らが作った改ざん聖書
- リベラル派とユニテリアン向けの聖書
- 第一ヨハネ5・7:消された改ざん聖書
- 一つの世界宗教・一つの世界聖書
- ネストレ版/UBS版聖書本文とは？
- 日本語聖書と本文・底本 一覧
- 聖書の真実がわかる動画サイト集

- TR新約聖書　読者レビュー
- 新約聖書ラインナップ
- 新契約聖書　明治元訳 新約聖書
- イエス様が確証された本当の聖書
- **TR**聖書と非TR聖書:訳例比較1・2
- 聖書本文の比較と検証
- 新約聖書の本文 TRについて
- 旧約聖書の真の本文...マソラ本文
- 聖書シリーズの本
- 聖書のホームページ
- "KJV Only"ではありません
- 《天国と地獄の情報》
- エターナル・ライフ・ミニストリーズ
- 《刊行物 一覧》　《無料読物 一覧》
- 《ｴﾀｰﾅﾙ･ﾗｲﾌ･ﾐﾆｽﾄﾘｰｽﾞ》

利用規約　Copyright C. エターナル・ライフ・ミニストリーズ